

# 令和3年度九州大学法科大学院入学者選抜試験

(第2次募集)

試験問題

## 論文試験

(注意事項)

- 1 本試験問題は指示があるまで開かないこと。
- 2 本試験問題は(この表紙と白紙を除き)12頁、解答紙は2枚である。「始め」の合図があったら、それぞれ確認し、解答紙のすべてに受験番号を記入すること。
- 3 解答文は横書きとし、所定の解答欄に記入すること。
- 4 論文試験の筆記具は、B又はHBの鉛筆又はシャープペンシルを使用することとし、それに従わない答案は採点しないことがある。
- 5 ラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題検討のために、問題用紙及び答案構成用の下書き用紙に限り許可する。
- 6 採点は45点(30%)を最低合格ラインとして設定する。

I 次の文章をよく読んで、問(1)・(2)に答えなさい。

【出典】佐藤裕『新版差別論—偏見理論批判』(明石書店、2018年)22-31頁。

なお、脚注は原文注である。問題の作成に当たり、原点の文章を一部加工している。

問(1) 差別と逆差別について、下線部①「互いに差別し合って『おあいこ』ではないか、ということでもいいのでしょうか。」について、差異モデルと関係モデルに留意して250字以内で説明しなさい。(25点)

問(2) 就職における国籍差別の問題性を差異モデルと関係モデル、下線部②の排除概念を用いて500字以内で論じなさい。(50点)

II 以下の文章をよく読み、問(1)・問(2)・問(3)に答えなさい。

【出典】品川哲彦『倫理学入門 アリストテレスから生殖技術、AIまで』(中公新社、2020年)179頁-188頁

なお、問題の作成にあたり、下線部を引くなど、原典の文章を一部加工している。

問(1) 下線部①について、死ぬ権利を認めることの問題性を説明しなさい。そのうえで、「私の体は私のものか」(下線部②)という問題が、「死ぬ権利という概念は成立するか」(下線部①)という問題と、どのように関係しているのか、200字以内で説明しなさい。(20点)

問(2) 下線部③について、「私の体は私だ」と「私の体は私のものだ」との相違を、臓器移植の例に触れつつ、300字以内で説明しなさい。(25点)

問(3) 下線部④につき、何が矛盾なのか、250字以内で説明しなさい。(30点)